

日本青銅、働き方改革推進

青銅合金メーカーの日本青銅（本社＝東京都荒川区、佐々木太志社長）は、働き方改革を推進している。本年度（2024年1月期）までに勤務施策として本社と岡谷工場で「年間休日150日」の実現を目指し、社員の有給休暇100%消化に取り組む。また、2～3年後には「週休3日制」の導入も検討中だ。一連の働き方改革を通して、社員の満足度や定着率の向上、生産性アップ、優秀な人材の採用を図る。

「時代に合わせて、

社員が働きやすい環境を提供すべきである」という佐々木社長の考えの下、同社は快適な職場づくりに向けたさまざまな施策を立案・実行中だ。設備面の充実を目指し、昨年は本社オフィスの大掛かりなリフォームを行った。1～3階までの内装を全て改修。会議室や役員室、女性用休憩

人員拡充、年休150日実現へ

「週休3日制」導入も視野

室などを刷新して働きやすさを追求したオフィスを完成させた。次なるステップとして、年休150日制に着手している。年休の

内訳は、従来の土日祝日、夏季・年末年始休暇、年20日の有給休暇に加え、年5日の特別休暇を検討中。この特別休暇は病気やけがを

れば、積極的に有給を使いやすくなるので「という社員のアイディアを取り入れ、有給取得を促進する制度として導入予定だ。

を中心に採用活動を進め、「10ある仕事に対して10人ではなく、15人で対応するような人員体制（佐々木社長）に強化。休暇中の社員を



佐々木社長

した際、「有給とは別に安心して休める日がある

このほかにも休暇を取得しやすい環境を整え、社内チャットツールでは全社員の勤務予定を見える化を行い、休暇取得日程を立てやすくしたほか、休暇申請もオンライン上で全て完結できるシステムを構築している。休日制度を充実させるため、近年は人員拡充に努めた。中途人材

フォローし合う環境を整え、取引先にも不便をかけない体制をつくり上げた。

また、製造拠点である岡谷工場（長野県岡谷市）でも働きやすい職場づくりが進む。本社と同様の勤務施策のほか、工場内の暑さ対策として移動式の送風機の導入やドリンクの支給を実施。さらに、来年度には最新のクーリングウエアを新調する予定だ。

こうした社内改革が徐々に実を結び始めている。ここ2年間で離職者は1人と減少傾向にあり、若い世代が多く入社したことで、全社員約50人の平均年齢は30代半ばと会社組織の若返りにも成功している。